

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 亀岡商工会議所 2階役員会議室
			担当職員 三宅
日 時	平成24年11月5日(月曜日)	開 議	午後 2 時 00 分
		閉 議	午後 4 時 10 分
出席委員	菱田 ○福井 井上 馬場 藤本 湊 小島 西口		
出席理事者			
出席事務局	今西事務局長、三宅		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 名	議員 名

会 議 の 概 要

14:00

京都中部地域のものづくり産業に係る亀岡商工会議所との意見交換会 (亀岡商工会議所より説明、意見交換)

- ・ 亀岡商工会議所からの意見交換出席者
工業委員会並びに機械金属電子工業部会より9名

1 開会

< 亀岡商工会議所西田常務理事 司会 >

- 亀岡商工会議所工業委員会 福井委員長 あいさつ

本日は、京都中部ものづくり産業ネットワーク会議で取りまとめられた施策提言のうち、工業系の人材育成について、南丹地域における工業系学科の新設に向けての意見交換を深めたいと考えている。よろしくお願いします。

- 菱田委員長あいさつ

当委員会では、亀岡の事業者の活力を発揮できる施策、地元雇用の創出等について、議論している。本日は、地元の人材をどのように育て、地元事業者の役にたち、市政の発展につなげられるのか、その点を含め、忌憚のない意見交換をさせていただきたい。よろしくお願いします。

2 議題

(1) 地域におけるものづくり産業の人材確保について

[亀岡商工会議所事務局、資料に基づき説明]

～ 13:20

[意見交換]

(亀岡商工会議所出席者より)

< 出席者 (太陽機械工業株式会社) >

この地域には工業系の企業が点在しているが、新卒採用にあたり工業系の高校がないので、人事担当は市外に出向きコンタクトをとっているのが常態化している。リーマンショック以来、ものづくりそのものが低迷、亀岡まで来てもらえる人材は少

なく、結果的にこの地域の普通科や農芸高校から採用することとなる。しかし、一から基礎的な勉強をしてもらう必要があり、双方にとって負担となる。また、市外でものづくりに携わり、将来的に亀岡に帰ってくる人材が多い。はじめから地元企業等に就職した方が効率がよい。地域の人材確保のためにも工業系の学校又はコースを設定願いたい。これが我々の思いである。

<出席者（株式会社桂工作所）>

宮前町に立地しているため、市外からの通勤は困難であり、人材確保に大変苦労している。農芸高校から採用している実態であるが、図面や測定など、基礎的なことを学ぶため一定期間を要し、また市外からの採用では定着しにくいと感じている。安定的な経営のため、地元の高校からの採用を望んでいる。

<出席者（ニチコン亀岡株式会社）>

伏見工業、洛陽工業等の卒業生を採用しているが、亀岡市在住者は非常に少ない。通勤等の事情を考慮すると、地元の工業系新卒者を第一に望んでいる。電気系の基礎知識が必要であり、普通科よりも工業系卒業者の方が理解が速い。ぜひとも地元で工業系高校の設置をお願いしたい。

<出席者（パナソニックセミコンダクターディスプレイデバイス株式会社）>

大学卒は開発、研究、高専卒は電気系、機械系のものづくりのリーダーとして、高校卒は技能、伝承というように、企業の中ではそれぞれ役割を決めている中で、高度な技能を磨くためには、若手であること、ものづくりに対するセンスが必要であり、普通科よりも工業系の人材が求められる。また、地域経済活性化の観点からも、地域の中の企業に入り、地域内のサイクルで地元貢献すべきである。地元で工業系高校があれば、企業からのアプローチもしやすい。

<出席者（株式会社温水器センター京都亀岡）>

地元で人材があることは、将来の発展につながる。小中学校からものづくりに慣れ親しむことで興味をもち、工業系の人材育成につながる人づくりというものが必要である。

<出席者（京都エレクトロン株式会社）>

ほぼ毎年、地元の新卒者を採用しているが、普通科であるため、電気系のことを教えるのに非常に時間がかかる。もともと工業や電気系に興味があって就職したわけでないため、せっかく教えても長続きしない。よって最近では事務系しか地元高校から採用していない。ぜひこの機会に地元の高校に特徴のある工業系学科を新設していただきたい。

<出席者（株式会社宮木電機製作所）>

工業系の高校では洛陽工業、田辺高校から採用しているが、地理的な面で太いパイプを築きにくい。安定的、継続的に採用していくのは困難である。一方で面接時には、ものづくりが好きであるが、近くに工業系の学校がない、ものづくりが好きであるが、総合学科で学びたいという声を聞く。ものづくりが好きであるが選択肢が限られている子どもたち、またそういう子どもたちを採用したい企業側の思いというものは一致している。

<出席者（株式会社アイ・オーテック）>

地域雇用により過疎化を防ぐため事業を興したが、工業系の人材が集まらず、外に出ていく。また、普通科の採用で同じレベルに至るには、4、5年かかるため、零細企業にとっては大きな負担である。まちづくりには産業が不可欠、産業の発展には人材が必要。そのためには、地元で特徴ある学科をつくり、工業系の人材育成が必要である。ゆくゆくはそれが亀岡のものづくり産業、まちづくりを育てることに

つながる。

< 福井工業委員長（一志株式会社） >

亀岡のものづくり関係の製造業では色々と行政に協力できる企業が多い。我々だけで京都府に要望するのではなく、行政からも働きかけてほしいと考えている。

< 菱田委員長 >

今、商工会議所から各企業の経営者、人事担当者等の意見を直接聞くことができた。これらの意見を受けて、各委員の意見を求める。

< 福井副委員長 >

議会として各事業者の声を聞く機会を持てたことはすばらしいことである。南丹高校では、総合学科に移行された中で、就業体験やインターンシップ等の取り組みの考えをもたれている。工業系でもそのような受け入れや交流ができる体制を構築されればありがたいと感じた。まずは、南丹高校の総合学科の中に工業コースを設置し、交流、実績づくりが必要と考える。総務文教常任委員会とも議論していきたい。

< 井上委員 >

不景気で就職難と思っていたが、地元で技術力をもった即戦力となる人材が不足していること、そのような人材を採用したいという強い需要があることに驚いた。新たに工業高校を設置することは現実困難であり、実現性の高い案として、南丹高校に工業系コースを新設する考えがあるほか、京都学園大学又は交流活動センターの一角に人材育成に取り組む場をつくれなかと考えるところである。

< 馬場委員 >

今の教育課程では、理系、自然科学を疎かにしていると感じる。ものづくり産業の衰退が懸念される。大学教育においても、京都学園大学を含め、理数系を拡充すべきと考える。教育面で総務文教常任委員会の話がでたが、自然エネルギーを活用したものづくりなど、環境政策だけで取り扱うのではなく、本来的にはものづくりであり、そのギャップを埋めていく必要があると考えている。本日の意見をもとに、委員会として検討していきたい。

< 藤本委員 >

特色ある工業系の学科を南丹高校に設置することについて、全面的に賛同する。他市への人材の流出を防ぎ、他市からも人材が集まるような魅力あるコースを創っていくべきである。府下でもそこしかないような特色ある学科があれば、人は集まる。産学協働のもと地元でしっかり取り組んでいき、企業側も人材の雇用にはしっかり責任をもつべきと考える。

< 湊委員 >

学校側にとっても、少子高齢化のもと学校間の競争がある中で、工業系の専門学科により特徴をだすことは、メリットがあると思う。その一方で、中学校から高等学校へ進学する時点で、将来この分野に進みたいという大きな目標、意志をもつ子どもたちがどれほどいるのか。それを考えると不安を感じるところである。また、南丹、亀岡高校それぞれの就職率は低く、ほとんどが進学している。年間十数名しか就職していない現状がある。また、亀岡市内の中学校から工業系の学校に進学する生徒は、昨年ベースで全生徒数 907 名中、洛陽工業高校へ 5 名、伏見工業高校へ 3 名、田辺高校へ 1 名、府立工業高校へは 0、舞鶴高専へ 9 名、計 18 名のみであり、工業系への進学率は 1.98% と非常に低い数値である。そのような状況下で、どのようにして子どもたちに工業系への興味をもたせていくのか、そちらの方が大きな課題ではないか、その点から検証する必要があると考える。

< 小島委員 >

今の子どもたちが将来、どのような夢を持っているのかに着目し、サイエンスフェスタや京都丹波EXPO2012など、若年層から工業系への興味を引き付けるきっかけづくり、取り組みが必要と考える。また、一般の大学生の中にも、ものづくりに関する仕事に就きたいという思いをもった学生もいるはずである。ものづくりに接する機会をよりもてるよう、企業とともに取り組んでいきたい。

<西口委員>

就職難の大変な状況において、地元の事業者から前向きな話を聞くことができた。企業としては即戦力となる優秀な人材がほしいということであるが、今後、商工会議所としては、今後どのようなアプローチをしようとしているのか。議会としてどのように取り組んでいけるのか考えたい。工業系の設置については、学校の枠組み等を含めた中で検討すべき課題である。教育委員会にもこのような各企業の声を聞かせるべきである。

<菱田委員長>

各企業におかれても、子どもたちにもものづくりを体験できるような機会を増やし、工業系へ興味をもち、進学、就職につながるような取り組みが必要である。大学を卒業しても就職が決まらない中で、高校を卒業してすぐに就職できることは素晴らしいことであり、地元亀岡で40名程度、ほぼ1クラス分の採用が見込まれる期待がある。学校という観点では総務文教常任委員会で議論する内容であるが、就職、商工業振興という観点では産業建設常任委員会であり、議会の中で議論を広めていきたい。

<福井工業委員長>

我々企業サイドでは、子どもたちに魅力あるものづくり体験をさせられているかというと、チャンスを活かしてきれていない。ものづくりの達成感を味わえるような取り組みが必要である。今後のアプローチについて、本日の意見交換を踏まえ、議会では、市、京都府教育委員会に働きかけをいただきたい。商工会議所としては、市、南丹広域振興局を通じて京都府教育委員会に働きかけを行いたいと考えている。

<福井副委員長>

南丹地域には工業系の教育機関がないという前提で働きかけていこうとする方向性を理解した。それであれば、何としても亀岡に設置してほしい。そのために、亀岡市としての考え方を明確にするために、本市議会へ請願をしてもらう方法がある。

<菱田委員長>

請願により議会からの政策提言として、府に意見書を提出するなど働きかけができる。ぜひとも検討願いたい。

<西田常務理事>

企業側からは、要望するだけではなく、インターンシップの受け入れや教育環境への協力をするという色々な意見を聞いている。そのことも踏まえぜひお願いしたい。

<湊委員>

求人募集の現状は、非常に少ないものである。地元の企業が前向きな考え方をもっていると、今後の方向性が大きく変わってくると期待できる。

<馬場委員>

企業の活力につなげるためにも、工業系の生徒を採用すると同時に企業内の連携でその人材を育てる教育に努めてほしい。

<福井工業委員長>

いただいた意見を踏まえ、請願書をまとめていきたい。よろしくお願いします。

<商工会議所出席者>

求人募集をすると、たくさんの応募があるが、我々が求める内容と合わない。一から頑張るということであるが、それではやはり無理がある。決して人がいなくて困っているのではなく、必要とする人材がいなくて困っている。

< 商工会議所出席者 >

この地域で製造業を希望している生徒は本当にわずかである。その中で工業系学科を新設してもすぐに生徒が集まるのか問題がある。そのためには、小さい頃から夢をもてるようなことをしていかなければならない。企業としてもできることを取り組んでいくが、我々にできない部分、小中学校教育における方向性など、亀岡市として取り組んでもらいたい。

< 商工会議所常務理事 >

実際、サイエンスフェスタ等のように、企業としては、子どもたちに興味をもってもらうための取り組みに努めており、小中学校教育の在り方についても、市教育委員会に要望を行っている。また工業系の高校に生徒が集まらない問題について、例えば南丹高校では総合学科があるため、コース制を設ければ、学校の権限で色々な選択肢をとることができる。特徴的な工業学科づくりとして前向きに進めていきたい。あと2年程で京都府全体の高校の枠組みが決まる模様である。学校の吸収などが懸念されるところ、何とか亀岡に設置をとということに向けて、市内の企業はこれだけ頑張っているのだということを京都府にPRしていきたい。ぜひ協力願いたい。

< 西口委員 >

南丹地域は空白であることから、そこに注目して京都府にバランスをとるよう働きかけるべきと考える。

< 商工会議所常務理事 >

南丹地域には、産業支援施設も空白である。このことも含め要望していきたい。

(2) その他

< 福井工業委員長 >

西別院町のユメミファクトリーについて、市議会ではどのように捉えているのか。

< 菱田委員長 >

西別院工業団地用地は、地域の活性化につながる有効土地利用を望んでいるところであり、個人的には、ユメミファクトリーについては、その手法としてよい手段であると考え。

< 井上委員 >

平日でも賑わっており、他府県ナンバーの車が多く、山間地域でも独自性を出せば誘客が見込めることを感じている。

< 福井工業委員長 >

ユメミファクトリーは市外に向けて発信力がある。市として活用できないかと考えている。

< 馬場委員 >

業種に合った地産他消の戦略を考えていくべきと考える。

< 商工会議所出席者 >

日本の基幹産業であるものづくりの現状は、非常に厳しい状況である。その中で、企業に合った人材を確保し、人材づくりが最も大切。ぜひとも協力願いたい。

3 閉会

○福井副委員長 あいさつ

今回のように常任委員会が出向き商工会議所と意見交換をする機会は初めての画期的な取り組みであり、貴重なよい機会となった。理解し合うところ、補完し合えるところは手を組んでいかなければ進んでいかない。また時間のかかる困難な課題についても協力していかなければならないと思っている。亀岡市の進める企業誘致等においても、誘致の土壌のことだけではなく、雇用、人材育成の大切さに改めて深く考える必要性を感じた。ぜひとも今後とも協力をお願いしたい。

○亀岡商工会議所機械金属電子工業部会 安森部会長 あいさつ

今回、企業側の生の声を積極的に聴取され、同意された部分も多かったと感じる。これから先どうしていくのか、積極的に進めていくべしと受け止めた。請願を提出したらよいというだけではなく、幼年時代からの教育まで掘り下げて、企業からものづくりの魅力を地域、家庭に浸透させていけるような取り組みをまとめていきたい。インターンシップ等についても地元地域からの要請があればもっと積極的な展開を図ることができる。我々の力を利用してもらい、亀岡市が発展していけるよう、議会からも積極的に指導してもらいたい。有意義な時間となった。感謝する。

16：10散会